

生徒会選挙



選挙委員長 当選
副委員長 委員 総務
1年 斎太朗さん



選挙委員長 当選
副委員長 委員 総務
2年 松下真子さん

生徒会選挙が12月12日(木) (火)に公示され、立候補受に実施されました。11月19日 付・選挙運動と続き、立会演



説会と投票が同日に実施されました。各クラスの選挙管理委員が各種書類の準備・説明・演説会準備・投票票と、多くの仕事をしっかりと果たしました。立会演説会は二年前ぶりに体育館に一堂に会して、実際に



選挙委員長 当選
副委員長 委員 総務
2年 水田詩麻さん



税の作文 表彰者の皆さん

九州北部税務関連団体連絡協議会会長賞
○税の作文
次の人たちが、校長室で各団体の代表の方から表彰されました。おめでと〜(さいます。(敬称略)



里見 萌音さん

寺澤和希 諫早税務署長賞
光武野々花 諫早税務署管内税務貯蓄組合連合会会長賞
鎌田未来 飛永紗良 中村理乃
○全国中学生人権作文コンテスト長崎県大会
優秀賞 里見 萌音

おめでとう

候補者の生の声を聞く方法で実施されました。各候補者は、マイクに向かって自分の思いをしっかりと述べました。それぞれすばらしい主張で、内容の濃い演説でした。また、投票は諫早市選挙管理委員会から、実際に国政選挙等で使用する投票箱等をお借りして、本格的に実施しました。また、同委員会から選挙についての説明も受けました。一年生は初めての経験で、投票も戸惑う様子が見られましたが、全員がこれからの附属中学校のために真剣に考えて投票しました。

本校の大きな特色として、高校生との交流事業があります。行事は12月6日(金)に、一年生の授業で理科の高校乗り入れ授業を実施しました。化学分野の内容を、4人で班を組んだ中に高校生が2人ずつ入ってわかりやすく教えてくれました。

高校生の学び

夏目漱石が著した「三四郎」(1908年刊)に次のような一節があります。熊本から大学進学のため東京する主人公(三四郎)が、汽車で乗り合わせた人に向けて、
「日本はこれからどんどん一等国として発展するでしょう」という内容を言います。すると、その人(後の三四郎の師広田先生)が、「減じるね。」と言います。
「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より……」でちよっと切ったが、三四郎の顔を見ると耳を傾けている。
「日本より頭の中の方が広いでしょう」と言った。「どわれちゃだめだ。いくら日本のためを思ったって最良の引き出しになるばかりだ。」と言います。そして、
「この言葉を聞いた時、三四郎は真実に熊本を出たような心持がした。」と続きます。

日清戦争(1894年)日露戦争(1905年)に勝利して、日本中が高揚していた最中に「三四郎」は書かれました。その後の日本を思うと、漱石の恐るべき本質を見極める力、洞察力を感じます。
また周りの雰囲気にならなれず、毅然として自分の判断を作品に反映させる、という気骨も感じます。
それに比して、一般大衆は正確な情報を知らず(知ろうとせず)、世間では勇ましい言葉が喧伝されていたようです。それが最初の三四郎の言葉に表されています。
現在情報があふれています。まさに玉石混交の状態です。今こそ漱石のような英知が求められています。ネットの情報を鵜呑みにせず、自分の中でしっかりと消化しましょう。豊かな人生を送るためにも、物事の本質を見極め、地に足のついた考え方を身につけていきましょう。

最良の引き出し ひいきをしたために、かえって相手に迷惑をかけること。
喧伝(けんでん) 盛んに言いふらすこと
玉石混交(ぎよくせきこんこう) 優れたものと劣ったものが入り混じっていること